平成３０年度第１６回講演会　記録

日　　時	平成３０年１２月８日
会　　場	此花会館　梅香殿
講　　師	養父　信夫　先生　　宗像鯱の会代表
演　　題	神宿る宗像の海づくり「海の鎮守の森プロジェクト」の挑戦
備　　考	参加者１６３名（講座生 157、聴講６）　　記録　岩佐　達

はじめに

私は宗像の神官の家に生まれ、大学卒業後１９８６年に東京の会社に就職した。その生活の中で驚いたことは、東京は山の姿が見えないこと、人情が薄いこと、海が汚いこと、地面がコンクリートで固められ土が見えないこと、川がコンクリートの 3 面張りなど、宗像にはないものを多く見た。

結婚してまもなく 1995 年 1 月 27 日に阪神淡路大震災がおこり、また地下鉄サリン事件に遭遇し、都会での生活にリスクを感じた。このような環境で 12 年間サラリーマン生活を続けたが、残業も多く疲れる日々であった。20 年前に「グリーンツーリズム」のことを知ってすごく惹かれ、独立して都市と農村をつなぐグリーンツーリズムを広げる活動を開始した。「九州のムラ」を元気にする活動を展開しており、今日はその活動の一端を紹介します。

【講演要旨】

１．世界文化遺産「宗像大社」について

（１）宗像大社は広島の厳島神社を含む全国 6200 末社の総本山で、平成 28 年 7 月に「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」として沖ノ島、小屋島、御門柱、天狗岩、沖ノ島遥拝所、中津宮、辺津宮、新原・奴山古墳群の八つの構成遺産からなる世界文化遺産に登録された。

（２）世界遺産登録に際して、当初ユネスコは沖ノ島にある沖津宮だけを世界遺産に認定し、中津宮と辺津宮は除外する動きがあったが、宗像大社は三神一体である事を Spiritual（霊性）、Animism（精霊信仰）、Ecology（生態学）を強く訴えた結果、ユネスコの理解を得て宗像大社全体が登録されることになった。

（３）多くの世界遺産は観光ビジネスが先行し、信仰と対立する傾向にあるが、宗像大社は沖ノ島にはいることができるのは神主のみで、一般人は入れず信仰の対象であることを守っている。宗像三神は宗像の神様であり、漁師が三神を守ってきた。海の環境も宗像七浦の漁村の人々が守ってきた。

（４）しかし、近年沿岸漁業を取り巻く環境は厳しい。鐘崎は以前アワビ漁などで潤った漁村であったが、近年磯焼けで不漁がつづき、立ち行かなくなってきている。世界遺産に登録されたのを契機に持続可能な環境・観光地域づくりを目指して、鐘崎を起点に海の環境を守る地域をつくる活動に取り組んでいるところである。

２．宗像国際環境 100 人会議

（１）宗像の世界遺産を守ってきたのは地元の漁師だが、その漁師を取り巻く環境は磯焼けや大量の漂着ゴミへの対応等、非常に厳しいものがある。漁師を支援し海の環境問題を考える場として「宗像国際環境 100 人会議」を平成 26 年に立ち上げた。年に 1 回、夏に 3 日間開催している。

（２）海の再生活動として竹魚礁作りや海岸の漂着物清掃、又次世代の育成プログラムとして東京理科大学

の黒田玲子先生に講演を、また協力企業担当者に講演などをお願いしている。

（３）最初の２年は東チモール大統領、気候変動に関する政府間パネル（略称ＩＰＣＣ）議長、スウェーデンの海洋担当大使などグローバルな方々によりハイレベルな協議がされたが、現実の問題から遊離した議論が目立つ結果となった。そこで、夏に１回行う環境会議の構成メンバーを宗像市、観光協会、漁協、地元のＮＰＯの環境団体、協力企業、地元水産高校、九州大学とし、行政、民間、大学と産官学協働の実行委員会を立ち上げた。

（４）環境会議は情報発信力がある。世界遺産に連動するとメディアも注目し特番を組んだりする。我々はそれに乗っかり海の環境問題を世界に発信している。環境会議の活動は、環境省の中井徳太郎統括官や地上資源経済圏を提唱する日本環境設計株式会社の岩元美智彦さんの講演、“世界遺産から始まる新たな挑戦！”シンポジウム、竹魚礁作りや漂着ゴミ清掃のフィールドワーク、海女さんの公募による後継者づくり、ＪＡＬスカラシップとのタイアップなどの活動を展開している。

３．宗像鯱の会

（１）今年、寅年生まれの同期生３人で“宗像鯱の会”というのを立ち上げ、観光、環境、地域づくりの組織を確立し、次の世代に繋げようとしている。観光、環境で経済活動が成り立つよう、世界に対して宗像をどのように売り込むか、訪日客を宗像に取り込む仕組みづくりに取り組んでいる。上海からの観光グループの受け入れや、パリでのジャパンフェアで宗像をＰＲしてインターンシップを受け入れ、今年の環境会議に参加してもらった。

（２）活動経費の確保

環境保全活動の経費をどう確保していくか、最初の３年間は行政からの交付金で何とかなるが、通常は３年過ぎると徐々に軽減していくので、自立して経費を賄っていくことが必要になる。このため次の３項目を計画している。

① “海の鎮守の森基金”創設し、行政主導で進めてほしいと思う。

② 民間の大手企業はＳＤＧｓの取り組みをしている。宗像を舞台とした環境テーマを提案していくことで、企業のリソースである人・物・金を活用する。

③ 鯱の会の活動による観光・環境で経済活動が成り立つようにする。

４．これからの計画

社会に情報発信する活動を拡大して行きたい。そのために日本財団に支援を申請している。

その４本柱は次のとおり。

① 海の植物園プロジェクト：海の中の環境調査を予算化し、ゆくゆくは海藻でお花畑を作って観光につなげていく。

② 海の足跡プロジェクト：九大がある企業から譲ってもらったイリジウム通信機能を持ったブイを流し、どこから漂着ゴミが流れてきているのか実際のデーターを集める。

③ 海の甲子園：海の環境保全の為の提案を若手に出してもらい審査し、予算化し人や技術をつけて次の世代を育てる。

④ 海の環境読本：海女さんからヒアリングした環境のキーワードと押し藻で本を作り販売、環境活動に活かす。

ご清聴ありがとうございました。

【Ｑ＆Ａ】

Ｑ1：磯焼けの今の状況はどうなってますか？

Ａ1：全然変わっていない。１～２年で解決する問題ではない。温暖化、森からの栄養源遮断、護岸工事など様々な原因があり複雑。今、蛎殻を貼り付けた石を投入し海藻が根付くよう相当金をかけてやっているが追いつかない。

Ｑ2：環境１００人会議は一般人も聴講できますか？

Ａ2：可能です。2019 年の日程も８月に決まっており、是非おいでください。。